

護衛艦の食事作りを間近で 高校・専門学校生が見学



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・野口貴志1等空尉）は8月7日（日）、清水港日の出埠頭（静岡市）に入港した護衛艦「あまぎり」において、調理の仕事に興味のある高校生と専門学校生の男女2人の特別見学を行った。

参加したのは、「ご飯を作るのも食べるのも大好きで、自衛隊の食事をつくる仕事に興味がある」という袋井市在住の高校2年生、田村勇昂さんと、「ご飯を作って、人が喜ぶ顔を見るのが好き」という磐田市在住の専門学校2年生、鮫島福紗さん。2人の「調理室の見学をしたい」という強い要望に艦側が応え実現した。

乗艦した2人はまず、同艦で調理を担当している給養員の多胡達頼3等海曹、保坂和希1等海士と食堂で懇談を行った。「給養員の仕事で大変だったことは何ですか」「今からやっておいた方がいいことはありますか」と、気になっていることを次々質問し、隊員の経験談やアドバイスを真剣な面持ちでノートに書き留めていた。

次に、乗員120人分の食事を作る調理室を見学した。家庭用の何倍もある大きなまな板や蒸気を利用して調理する釜など、見慣れた台所とは全く違う光景に、2人は興味津々な様子だった。

その後、艦長が指揮を出す艦橋や乗員の居室などを見学し、護衛艦の任務や船での生活について理解を深めた。2人は「普段見ることのない艦内を見学でき、給養員以外の職種についても知ることができた」「とても良い経験になった。早く海上自衛隊に入隊したい」と将来の夢への思いを強くしていた。

袋井所は、今後も部隊と協力して自衛官の仕事をより深く知ってもらう機会をつくり、若者の職業選択の参考になるようサポートを行っていく。

キッズジョブ2022で広報活動

子どもたちは「このバイクはどんな時に使いますか」「荷台には何人乗れますか」「自衛隊に入りたい!どうしたらなれますか」といった質問があり、自衛隊のブースは列ができるほど賑わいを見せ、「来年も来てください」と嬉しい言葉を受けた。

富士所は、今後も地域のイベントで自衛隊の活動や魅力を発信するとともに、自衛隊を身近に感じることができるような広報を実施していく。

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・本間亮3等陸尉）は、8月20日（土）と21日（日）、ふじさんめっせ（富士市）で開催された「キッズジョブ2022」に参加した。

これは富士市産業交流部とふじさんめっせが共催し、幼児及び小中学生を対象に「仕事を体験して、学んで未来の自分を見つけに行こう」を趣旨に開催されたもの。過去2年は新型コロナウイルスの影響により中止が続いたため3年ぶりの開催となった。両日とも天候に恵まれ、多くの子どもたちと保護者が列を作り、午前10時開催の台図を心待ちにしていた。

会場には、働くクルマ体験エリア、お仕事体験エリア、ものづくり体験エリア、商店街体験エリアが配置され、30以上の企業等が各エリアに出展した。富士所は働くクルマ体験エリアに小型・中型トラックと偵察用バイクを展示して自衛隊の仕事について説明するとともに、子どもたちからの質問等に答えた。

子ども用迷彩服試着コーナーも設置し、自衛官気分の子もたちが楽しそうに車両の座席や荷台部分に乗り込み、車両の大きさやバイクの高さを体感していた。



常葉大学インターン学生が自衛隊を学ぶ



自衛隊静岡地方協力本部静岡募集案内所（所長・伊藤通孝1等陸尉）は、8月29日（月）から9月2日（金）の5日間、常葉大学外国語学部・社会環境学部（静岡市）のインターンシップ参加希望者5人を受け入れ、自衛隊の就業体験を行った。

初日は静岡地本長・武田恭一1等空佐が、自らのキャリアパスを学生たちにわかりやすく説明し、幹部自衛官の魅力をアピールした。

2日目は、海上自衛隊横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）で海上自衛隊の概要や任務について学び、護衛艦「あまぎり」の甲板に乗艦して乗員から装備品の説明を受けた後、曳船に乗って湾内から海上自衛隊の艦艇や設備などを見学した。

3日目は本部庁舎（静岡市）において、静岡地本募集課長の橋本政和2等陸佐が各自衛隊の魅力を伝えるとともに、自衛隊の広報活動のワークショップ体験を行った。また、一般大学出身の幹部自衛官からオンラインで話を聞き、学生たちは自衛隊の多種多様な任務に関心を寄せた。

4日目は航空自衛隊浜松基地（浜松市）を訪れて空自や基地の概要について話を聞き、パイロットを目指す隊員が訓練に使用しているT-4・T-400各練習機を見学した。一般大卒の若手幹部自衛官との懇談も行い、年が近いからこそ感じられる悩みや考えなどを共有した。

最終日は募集案内所で、学生が広報官になった設定で、高校生や大学生に自衛隊の魅力を伝えるためのプレゼンを行った。それぞれ今回の就業体験を通じて学んだことや自衛隊のパンフレットを活用して20分間のプレゼンを行い、お互いの話に聞き入っていた。

5日間の体験を終えた学生は「自衛隊の職種の多さに驚いた。自分も選択肢のひとつとして考えたい」「自衛隊に前から興味を持っていたが、今回のインターンを通じて更に知りたいと思った」と感想を話していた。

静岡所は、今後も多くのインターン学生を受け入れ、今回参加した学生の感想のように「そうだったんだ」「知らなかった」を引き出せるような五感で感じる就業体験を実施していく。